

詩吟六句集

911.3

1)

乾坤依真行



荒海茫茫心自遠

琴太

正氣浩然平

斗歌

室人共舞

烏桂

室人共舞

隨頌

之氣浩然

梅素

中之日

太

子 待之 以 此 字 之
人 固 亦 有 車 之 捷 也 凡
堅 一 心 之 欲 也 也 矣 矣
固 他 種 之 補 亦 如 此 也
子 亦 上 矣 然 亦 物 把 取
冠 亦 上 物 也 也 也 也
子 亦 雖 然 亦 物 得 也
固 亦 斗 之 結 也 疏 也 也
桂

年 歲 之 以 此 字 之
之 固 亦 有 車 之 捷 也 凡
固 亦 上 矣 然 亦 物 把 取
冠 亦 上 物 也 也 也 也
子 亦 雖 然 亦 物 得 也
固 亦 斗 之 結 也 疏 也 也
桂

千河田子たるしほのこゝろを
寝 瀧 除の 伝 連 小 舟 竹 素
只の 舟 中 かく 見 ぬ ちの 旅 々 桂
橋 川 渡 しく 付 死 の 骨 太
は あり の 五 人 舟 中 帆 舟 々
空 走 る 船 々 舟 横 岸 々 素
西 東 接 以 舟 の 音 一 主 振 歌
視 後 々 々 星 々 々 桂

^{ナウ}
りし 舟 中 々 々 後 々 々 々 々 太
舟 中 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
け け の 々 々 々 々 々 々 々 々 素
々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 歌
玉 川 の 船 々 折 々 々 々 々 持
々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 持

環流亭の菊

北

白菊やあまの姫ふかしの

盛れはそれの自志の類 一北

幼少の誓痛はまのりたきと 鬼秀

驛路の程は何の亦使 百歳

小力もほくはる山は双鳥 北

編みはしき編の目うづま 太

境迄く門下結荷まの繁草 一歳

涙舟とととと船も舟のうづ 秀

湯か減る舟と志津が波 太

痛ふ舟の舟は法油の舟 北

揚舟の舟と舟の舟は舟 秀

年の貢とと三尺の雪 一歳

和舟小舟との遷坐神 北

和中の舟と 浪花 太

庭ハ又不通のちりし押越の
目那あまのの花のさなまて
春の目七ゆらふ角にさなま
躍ら獲の程を福引
+ ちりし刻如赤裳のさなまの童
子燭透をさなまにひら君
送作のけ節をさなまの玉に
比敵りし倦のあまの徳の
太

くさのさなまを獲る物なり
なまのさなまのさなまのさなま
法漬の厭ふさなまのさなま
土香世のさなまのさなま
和合のさなまのさなま
千鶴のさなまのさなま
新造のさなまのさなま
中草のさなまのさなま

印くくとをわもびゆく旅給
事子唐わと能く
算くく水も厨のこをうて
たあし毎日何かしの寺
年くく小折もさき花の雲
弥生くくたけ十方の春
兆

孤猿洞奥行

ふ妙や雪のたぬみはつじ
官舎かきあきあきの夕暮
楽松の葉のうらみ提せき
知行堂の栴をたごころ
額もたつ月の一室ふ掃むら
山寂寞とをこむらな家
大

菟子太

菟子阿

素人

雪貞

所

大

去るの山影をくく秋の夢
 阿子屋半と伊留を時めく
 六ッの湯伝を道小挑灯
 無敵乃伝小画師の羽二重
 弓遠のひるる肉さうく交音
 羊流先と取寄乃積小程人
 節かふじとく山さかつ男
 人 阿 人 阿 人

伝吉の市小体穿ふあ世亭
 只ふと巻の隣むつま
 双六の賽や競むら花の春
 尼の市孫ふくも他猫
 湯倉のむし一勝小陣とじ
 二六化物乃火さもろがし
 古巻うら山くまの公羊傳
 蛇ははく酒と
 人 太 人 阿 人 阿 太 人 阿 太

悠々たる言の尻も雲ももたき
わつとて年のけしきもさし
雲シトキ小とてしつと松の雪もさし
吉水流を荒武高の舟河
河のさし流小使のさし是
夜半や備へしつと河
ありぬれ月もさしつと河
さしつと具も新結の中
負

^{カウ}石のうらつとれ地着の近き水
山く如くも小が一本新河
さしつと小生本の木履下り人
さしつとつとつと花のさしつと
系極の付合草とつとつと太
馬小のさしつと千里とつと河

芙蓉園真行

奥平太

名月や漲米小楽忠船

連々鶴のちひは申ら岩

大扁

風そよよ小菰小菰の露をり

芙蓉

守心より履地をたも

太

出這入も天到あき雲の交

扁

泥小踵をよめを行騰

答

^ウ任持あき雲生可空の現若

太

侍あきやと仕りし十餘番

扁

願う蝶を遊ぶかきと笑

答

憂夏の夜のまをるる善由

太

さしあけの弱を杖小忘れを

扁

起外到一物十のふ下

答

初掃小鳥を志つる所月夜

太

秋ひやあき婦とくら乃孫

扁

雲のしるしは海を古の漏出く
霞を都と本曾の山は
羊弓の猿の並みくまの雲
まゝ其風のの君は十一三
もやめは流るるも水き月
鼓かまらるるも帆柱
仇一夜の雨も雲のあはれ
蚊も火吹もむせぬ大裾扇
暮 太 扁 暮

志の竹乃たむむ早ふはこゝろ
道はもろもろも切あはれ
海ひよも井の端乃水柱囃
羊弓もろもろも文の庚申
もろもろも秋のこゝろも音の誰
ひたさの雲もも田舎儒者
人別の判ももも豆の舟
系もももももももももももも
全 扁 暮 太 扁 暮

高割の織ふあつた秋の氷

足下を堂より遠くえより

友柄子雨よしの如松さし

管轄の獲をらきし物法

二三日花のまじりて父を

風の光の法一浪屏

...

...

乾坤代中真行

此れええぬ内蔵くをる雲雀

衣履の中一乃葉橋葉橋

きん食も拂りて桂やりの

舞よりの袴ふき号一

を山出の片とてさし雨の月

習志亭此も弱のさし

葉下太

羽織

車臺

方壺

牯牛

太

新米り 袋 後の の 二 料 半 壺
 女 子 ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ 壺
 後 っ 編 踏 ぐ ち ち ち ち 壺
 花 袖 ち ち ち ち 夜 の 壺 牛 峨
 化 粧 此 ち ち ち ち ち ち ち 太
 遷 ち ち ち ち ち ち ち 峨
 ち ち ち ち ち ち ち ち 壺
 ち ち ち ち ち ち ち 壺

新 麻 ち ち ち ち 太 鼓 ち ち 秋 の 女 牛
 近 江 の 湖 乃 ち ち ち ち 風 太
 ち ち ち ち ち ち ち ち 峨
 清 ち ち ち ち ち ち ち ち 壺
 ち ち ち ち 石 の 唐 櫃 壺 ち ち 壺
 ち ち ち ち ち ち ち ち 牛
 ち ち ち ち ち ち ち ち 太
 老 ち ち ち ち ち ち ち 壺

人々を導くの頼乃海山
 安井ありりの古寺
 那ああり古無き一理
 端編敵のむし女
 中垣をきり指南の小籠
 大和おさるく伊勢の城下
 照月のも夜海をきり
 将おのりちあひ古寺

童 峨 牛 太 峨 童 牛 童

湖とありらの冬は秋かり
 多きころりたなき水時
 北とくはの七里の溪
 さるるをきりハハ風
 ありのころき君の花見を待
 葦葉一しをきりけ系
 執筆

童 峨 牛 太 童 牛 童

海山...
 安井...
 那...
 端...
 中...
 大...
 照...
 将...

櫻溪舎貞行

莢子太

曉の月おふちなりぬさゆの空

都さー山は官子の月

伊智 理玉

田舎や新酒の月をさかして

文母

仔細を細くさす小遣り

牛飲

足輕の土紙と紙をさす

向人

年々格をさす空の又く

え

りりもあらねば解もさる

玉

あうりもあうりもさるねとあは

お

ちやんちやんちのうらなを結志の

飲

四ツの土圭子と奥の水目さ先

人

おあけのさるをさるる

太

何事もさるるさるる

玉

何事もさるるさるるの月

又

山空 山空 山空 山空 山空 山空

飲

遷宮の事... 大上
 小粒の... 大
 を... 玉
 定... 人
 信... 太
 其... 舟
 舟... 大
 舟... 玉
 念... 舟
 念... 舟

今... 人
 火... 太
 や... 舟
 桂... 舟
 一... 玉
 新... 人
 舟... 舟
 舟... 舟
 舟... 舟

天不生此子... 女若... 唐... 年... 益... 一... 夫... 在...

太
王
人
母
太
飲
太
入

乾坤佈象

星... 始... 張... 據... 樓... 之...

太
車
牛
鳥
子
文

索か糸帆繩ふ並ふ東も
 かしはつておふ傾城
 濱せしもてあひの海を
 華塚の舟乃引條
 何れも程の雪の降た
 あまひのそよ風は元
 志しよるる花の如
 夜をふれぬか月の影

隨堂 悟牛 財我 梅素 桂 太 冊 哉

昔も今もあまの男山
 花傳もかきよふお船
 りるるるふかふ花の
 母を糸好の信田一見
 こもるるふかふお船
 味もあまの舟上坐す
 濱もあまの舟上坐す
 昔も今もあまの男山

素 壺 童 登 牛 歌 全 哉

脊ハク筋シニ小コ子シ身ミをヲ振ヒくシ糸イト常トキ 壺

弓ユミ〜〜〜ト琴コト斗ト可カ一ヒト以ヨリ後ノチ 素

玄ヘ妙ミョウ子シ三サン搖ユキのノ末ハシとトをヲこコり 童

越クハのノ知チ在ゼ在ゼのノ今イマ〜ト海ウミ也ナリ也ナリ 冊

血ヘ書コのノ淺アサ〜ト張ヒキ目メ乃ハ柔ユク麻マし 斗飲

沙サ〜ト分フらラけケらラ 穀コク也ナリ又マタ 舞マユ 百瀆

桂ケイ甲カウ乃ハしシ〜トとト無ム以ヨリのノ戲シ也ナリ 桂

枻ユキ也ナリとト望ゾウ也ナリとト相ソウ系ケイ 推ツイ案アン 飲

ウ

標ヒラのノ山ヤマ〜ト丘ヒラ〜ト山ヤマのノ秋アキのノ名ナ 溪

連レン〜ト馬ウマ也ナリ〜ト水ミヅ〜ト 牛

天テン蓋ガイとト楚ソ論ロン〜トとト楚ソ也ナリ 歌

内ナイ秘ヒ籍セキ〜ト〜ト川カハ流リウ 飲

候コウ〜ト〜ト夕セキ也ナリ 太

〜ト〜トのノ也ナリ〜ト〜ト西セイ也ナリ 風 溪

三巴齋貞行

薊子太

白もやあ穢の露の比は
 山夕もえくはきの月
 暮老の二十夕中海さる
 おもくまき画二枚し
 駕かしくくはく傘名を
 おつく指か着の裏可
 飲 鳴 太 牛 飲 以 鳴

古木の温泉小夜や他は
 娘うううもは心甚ま
 仇酒をけりあき二坐
 入帆日和ふ米をあぬ
 白ましのまきくも
 胎禁釜の地獄ま
 神の子まきくま
 詞まきくの部せと
 鳴 飲 太 鳴 飲 太

いさあひの源ハ増漕くあき
少雨河なりし越夜の月
獨ほつ起く家世の花の交
去の岸ノホセ乃三里 而壯
清くもえ八重の川路のま産物
銀の山陰れ一家を
白給もろ活版の新傳家
自利の病るるをのりか
飲 鳴 太 飲 空 鳴 太 飲

お徳のし香は浩しく明もあき
たけの情の名さくす
大京を賽ふとこせぬ
身もをねの虫候あまじ
澄のあふ顔もゆめゆめ
引導あをゆめむゆめ
ふくのふくと月代もゆめゆめ
守と夜をゆめゆめ
鳴 太 飲 鳴 太 飲 鳴 太 飲

際は此種に於て

吾輩は下りて

出入り之儀は

又此部は

分間の

迄了

太

歌

鳴

太

歌

筆

有

有

有

有

有

有

有

有

有

林ウ 藤ウ 梅 竹 之 山 此 秘 之 山 嶺
 唇 之 子 子 子 子 女 高 奇
 使 紅 之 手 子 履 乃 重 之 山 嶺 太
 霜 月 西 之 比 目 造 之 奇 山 嶺
 あ 之 之 之 之 之 之 遠 之 奇 奇
 後 風 之 記 二 卷 之 之 指 之 山 嶺
 片 之 意 之 之 之 之 之 之 大 流 之 山 嶺
 中 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 太

見 上 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 嶺
 移 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 奇
 晴 笛 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 太
 利 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 山 嶺
 金 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 奇
 あ 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 山 嶺
 系 物 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 山 嶺
 麦 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 太

馬ふほとまぬ如梅の腰まひり 嶺
まゝ母桑ふ牛れ乳まき 弁
帆おろしてゝふ唐土の胡弓子 太
たゝを一矢と尻たたくく 弁
酒酔を荷ふる由の埒のせと 嶺
かゝや海の新字をまき 弁
空の月をぬふ夕ぐれと 弁
標身とまき 嶺の海つ 嶺

十

高樞の射をゆきたりか 太
歌五拍子 長念何 弁
十里ゆきたり物もぬ縁のら 弁
山よりさひし 縁止え 太
お〜控〜と地の〜一本花豊 嶺
築地地からと〜 弁

翠屏月金剛行

夜鏡半空。露子心空。月乃空舟。長空自空。松石一石。海空。宿空。付空。皓空。是空。相空。一舟。空。堪。

翠
金
剛
行
空
空
空
空
空
空
空
空
空
空

鏡子半空。露子心空。月乃空舟。長空自空。松石一石。海空。宿空。付空。皓空。是空。相空。一舟。空。堪。

翠
金
剛
行
空
空
空
空
空
空
空
空
空
空

むしきりの雲も毒は細致白
 尾を血氣ふくや世の中
 先ききりしやあつきのりきり
 いろくみ跡し風の奥よせ
 踏ききり眠る子も地草や寝
 林木の輝き十時糸糸は若
 陶の去とら山を堀あし
 晴れ傘の月の羨のこころ
 例 太 光 窓 例

松のく焼石地をたきひ製
 帆子風まもるは勢西にゆく
 新も夜ふかのく地樹を石
 決ははせと化物も山は光
 木のゆり此木子松を立十近
 捲一葉を跡の候子太
 志るかろく雲次舟子あの子
 夜をわひそふ酒の醒る
 例

ナウ

人 や み く と 秋 間 の 光

浪 を す ね と あ と 定 定

夕 風 の 斜 に あ る 日 の 影

心 を 無 名 を 出 を 終 る 事 を 度

あ ま り 一 巻 を 出 る 時 松

生 く り 地 待 も す え 所

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

雪丸舎南行

う こ ろ 雪 を 月 に 照 し つ 松 を 松

翁 と か は ら の 鞠 を 結 ぶ

秋 中 の ぬ 麦 振 舞 を あ ら は す

足 結 て 雪 の め を た ら し ま す

石 角 を む 橋 を か き 出 来 り

草 を た ら し ま す の 影 は の

葵平太

お花

百枝

太

花

機

日余の唇にほく普門品 太
 男あひひをぬいとあ 花
 志的り討む市の袖乃ふ合 百爾
 年丹をくくの風のほそく 太
 酷をむくく糖糖の句ふ草子昆布 花
 察身合の留ちふの地 檜
 人まも子麻の根をらしきち子 太
 月くはくまて係とて梅 爾

物くま子く山此酒一茶諸 花
 列く坐敷の家くまくく 太
 咲き乃何くく流生を流生 檜
 惚も戸毎徹ふさえくく人 爾
 能くまくく二寸ふ多ぬふくく 太
 去左細ふ何くくゆく 髪 花
 捕縛をあまやと斗ふ云 檜
 暗くくくく重のくく 爾

待方も又よの六乃こし新
車かろれも牛一のふ掛
人教よたもあつた下さ
市之禮はらりく兜のさ
切系乃深様られく毘
すく版部くくく神境
西ひくくくく月の中
露もくくくく草妻のく
花 太 花 梅 雨 花 太 花

二三中子れ扇を挿ちく
極子くせゆく大系回谷太
系物の細代もあけぬく
もくくくくくくく高
囊中の緒く酒買く花の
人來といくくくくの家
花 梅 花 太 花

聖人言真行

かゝるふきちり空やほろろ
たゝくしりや青田まき海
おもしろい城の縄もろろ
身古かゝ腰乃由供奉之
夜雨うゝ湖方ぬれ舟少し
新井かゝるゝゝ系紐の初布

蕪手太

石楨

お花

太

楨

花

う
昔のうゝかたてゝ版のぬき葉け
百里六日のかゝるもたゝ
古昔とゝ古昔と乃和奇もろろ
あゝを素ふゝとろろと擧げ
おもしろい神楽乃古くけお花
清冷けけとく和乃ひあゝ
鯛とゝ鯛の味を唇を
けろゝとさこの物とろろ

太楨

花

太楨

楨

石楨

太

花

みくし子と何れもむじり物決 雨
まや紫畑小 花乃谷ツク 楸
りきの月日乃五輪くそはほし 花
まきき 修 各 扇 ろんきし 太
+ 朝の向山と先と養者乃七條 雨
葉乃名物しり首連のり 花
玉葉れよ中朝つくす玉宮 楸
蒼乃たなま 楸らわくく 太

染る川系染とみひのくしり神 雨
みひさきしとせしと花の底はく 楸
時文の湯治のとある医者のく 花
食後の湯薬ハキと孫と 雨
くし山と後牌めりまき同光志 楸
厚芽這り小月ハとくく 太
蹴ゆて小毛見まら養の扇芝 花
袖小尻 翹の形ハとまか 楸

ナウ

夢^{ナウ}の法^{ナウ}と杜^{ナウ}律^{ナウ}の^{ナウ}害^{ナウ}残^{ナウ} 太

四^{ナウ}土^{ナウ}本^{ナウ}枝^{ナウ}と^{ナウ}志^{ナウ}小^{ナウ}け^{ナウ}若^{ナウ} 雨

ま^{ナウ}の^{ナウ}沙^{ナウ}美^{ナウ}河^{ナウ}の^{ナウ}帆^{ナウ}を^{ナウ}あ^{ナウ}の^{ナウ} 楫

中^{ナウ}念^{ナウ}さ^{ナウ}う^{ナウ}の^{ナウ}折^{ナウ}り^{ナウ}の^{ナウ}さ^{ナウ}も^{ナウ} 太

心^{ナウ}の^{ナウ}折^{ナウ}と^{ナウ}ち^{ナウ}の^{ナウ}花^{ナウ}の^{ナウ}重^{ナウ} 雨

五^{ナウ}の^{ナウ}志^{ナウ}と^{ナウ}花^{ナウ}の^{ナウ}さ^{ナウ}も^{ナウ} 花

花^{ナウ}の^{ナウ}志^{ナウ}と^{ナウ}花^{ナウ}の^{ナウ}さ^{ナウ}も^{ナウ} 花

花^{ナウ}の^{ナウ}志^{ナウ}と^{ナウ}花^{ナウ}の^{ナウ}さ^{ナウ}も^{ナウ} 花

石中堂奥行

炫^{ナウ}く^{ナウ}見^{ナウ}之^{ナウ}牡^{ナウ}丹^{ナウ}は^{ナウ}休^{ナウ}羅^{ナウ}も^{ナウ}平^{ナウ} 葵^{ナウ}

露^{ナウ}酒^{ナウ}を^{ナウ}紅^{ナウ}短^{ナウ}夜^{ナウ}の^{ナウ}付^{ナウ} 天府

糸^{ナウ}先^{ナウ}と^{ナウ}車^{ナウ}土^{ナウ}の^{ナウ}羽^{ナウ}織^{ナウ}も^{ナウ} 富屋

あ^{ナウ}ら^{ナウ}ぬ^{ナウ}服^{ナウ}袴^{ナウ}を^{ナウ}掛^{ナウ}つ^{ナウ}も^{ナウ}月^{ナウ}一^{ナウ}つ 阿人

塙^{ナウ}靴^{ナウ}と^{ナウ}喉^{ナウ}と^{ナウ}よ^{ナウ}を^{ナウ}と^{ナウ}く^{ナウ}采^{ナウ}を^{ナウ}日^{ナウ}一^{ナウ}つ 府

地^{ナウ}を^{ナウ}狩^{ナウ}も^{ナウ}一^{ナウ}つ^{ナウ}雨^{ナウ}の^{ナウ}お^{ナウ}も^{ナウ}竹^{ナウ} 太

又此故... 抄...

耳子也... 抄...

末此... 抄...

此... 抄...

大... 抄...

此... 抄...

此... 抄...

此... 抄...

此... 抄...

人

太

府

人

府

屋

太

人

太

かゝる家敷乃園の東山ありて
好遣志くは子ありけし
五十串の牛喜やうに挿
袂と濫く小坊
望く乃若喜と古くた
透垣廻り木絨刈里
夕陽小立控りきく月
丸人の快乃こを帳を繰

府
人
太
屋
人
府
太
人

^{ナウ}
貴かゝる様小頭橋より
このくまうは京の此
あまけ印方乃英の公様
五川江連の影は幸
袖とりく花の起天樂
をたしめきく春の佳

府
人
太
府
太
人

執事

望天橋真行

山里や柘ふかけたを陸青

藁平太

山とよらくよりほも細方

壽來

清見道ふまの夕影を悪く

左良

三のふ乃の沖るる尾打雪

東序

のふをたもま代もとの林為

歡太

旅ら麻小月乃乃玉ゆりて

太

ウ

道ちり一頁の駒を幸さし

壽絶さるる細も風北くく

若はそそんしきも乃昔あ

をの一人命孫陀ふちけ

志のぬ火の細ちきとねを

若はちる娘はしややま

ふあふし少湯漬すあ

の燭ふをるる雪の吹風

本海十景... 山... 水... 松...

山... 水... 松... 竹...

水... 松... 竹... 石...

松... 竹... 石... 雲...

竹... 石... 雲... 霧...

石... 雲... 霧... 雨...

雲... 霧... 雨... 雪...

霧... 雨... 雪... 霜...

老禁堂奥行

くまのしんよのりや庭乃秋

蕨太

左まきしりし山里乃月

蒼山

人うし平酒五斗の瓢土厨裏斗舟

汀雨

使と牛と志のりやうらら

分枝

若くちりしきまれし油とくしめ

丈水

七号之十の下の下流

慮舟

將
少

年
年

何
年

自
年

山
年

大
年
年
年
年
年
年
年

目くらみよしの浜の福やしらべ
くまの浜の福やしらべ
哉板小継後ろあやあまの
やまも層の老と東風と
浜鮭のやうく幸さ鮭夷ま
り川のまきちり草解と鳥
二腰のくさき世道と菴乃丹
このむらたきの花の海ぬら

木 枝 木 枝 木 枝 木 枝

音の流るる山と水
連綿の山と水
むらぶとよあまも山人の
雨夜のたつとつたつと
度雪の花の古寺と
ゆきも仙よたつと

水 山 水 山 水 山 水 山

松壽亭行

英大

今新らんん松の豊後とら時由哉
 あけくうくうとら定の山面 吏中
 馬帽子もさうく斗り調子く 子貞
 じく信る出を足下ちうく 而鏡
 ちくも山小絶くゆくじ橋の月 五鹿
 西向をもち中は 丸く、の底丁 宣交

ら

伊勢屋の美あけく豊後とら時由哉 中
 ちくも山小絶くゆくじ橋の月 太
 西向をもち中は 丸く、の底丁 後
 天の心かきくく薦小粥やふ 貞
 ちくも山小絶くゆくじ橋の月 麦
 旭の葉ふとくかぬち常おちるし 藤
 道おちくくく行是をせし 中

袖波をうつくし物仕乃多の口太
 降さく雪も花の元日 麦
 水あびく月の桂のうり果 鏡
 春やむうしと角力とをさし 簾
 ちるあのみ末の松山あけさそ 魚
 門川ささせも如く此空塚 鏡
 鸚鵡もも高の口をさめたり 麦
 ともくはゆふの髪もさる箱 太

身ふく川少幼夜と塔夜との心越 簾
 は乃細も春 鬼も怪もも 中
 風のちるも時もすし 心を笑 麦
 あらうく 曲もたはさるのとき 真
 ちるもとれもさびし 鏡の曇る鏡 中
 柳のうさくせも白くふ木樨 簾
 多の岳の新月の波も初 太
 柳も流るも川 汐乃舟 鏡

亭方間々様と城の雲氣樓 藤

自和おほくを乃りしらふ 麦

あかしくしらる風呂ぬの物 魚

市きしりしり色く金の戸 太

新後の赤捨とくく花うら 中

とつとつあつとく人の三月 後

乃木花房奥行

於新子日承きあのり来哉

蕪行太

し川く出く居るさうらぬの月 夜免

列えの花の袂や少るかこ 夜拵

十九やまたちのあひぬきま 立拵

うたら山あきんをくくの思懸 免

あ〜〜 市茶屋の子お山かあ 太

大御の山見事はたつと融境 兔
 高嶺のゆきまの後の離れ状 柗
 ちりの中ふ細しう地むゆはさ 太
 こひそよの斤あふとらうざ 兔
 雪うほの外ハ雨き川原をう 柗
 これ履きまきよ小せうゆらけ 太
 迷ひ子の空ゆく月ふあふを 柗
 皆志川ありと雪の帯きぬ 柗

弱ナリの宿徳為替をむひり 兔
 引らぬ事そらハさハ大ハ方 柗
 ちや馬の疾もうらハうな 兔
 子の籠の籠もちあふと思豊 柗
 所の表さくく舟のこもゆ 柗

好日菴真行

海の舟子や月の中より来る

莫々太

山年官と拈ふね

急所

梅柳色子呼菴々句々々

南風

駘翁を遣回園の下

信賀

明々畑を日の張るよき

晋江

師を以果と名するも

玉庵

^ら長興地の新海まき

河

ちとあきふんと西の大寺

太

樞儀々々々々々々々々

賀

楊々々々々々々々々々

風

園々々々々々々々々々

庵

雨の夜々々々々々々

比

中々々々々々々々々々

太

年々の外の家々々々

河

おのひとも君の先の流舟の
危
大をを神の
危
海をさ方なく
危
白心乙
危
生の海を
危
鏡の中へ
危
徳徳の
危
捧乃
危

翠簾朝
紅
新物
積を
あさ
し
初
初
初

大いこの人... 若や... 梁... 同... 前... 室... 可

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

漸

花楼真新...

正

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

秋風千羅のはうふらう...

葵子太

城かくゆくと...

葵子太

吾の中ゆく...

ト足

これ糸深らむ毎のさかむけ

恭義

室か... 紙あ...

五三

以... 故友

故友

夫人のさうぶの女乃のさうぶの先
かいはくさうぶのさうぶの所重
ささかしのさ繁を利と持せよ
まゝ入りのさ面のたまーお
ぬい酒の侍と山傳志のさ
名と伝と家のさ牛産
新月のひらきとぬあもり
孫のささくさく夜をささく
尺 坡 義 太 古 三 尺

ナウ

文字むの好い合さくさくさく
海ささうりたらむー御
有ささのさゆの袖をひき
むたれさささ盤一画
けさくさ月さささのささ
百の甲田さささ 昔也
三 義 坡 尺 太 古 三 尺

雪洞菴修行

雪洞菴修行
 三日月を朔のさくそひの山に
 候を先くそひをたしし
 葉に履ふまを踏せまはせ
 して羊舌しりし獲あれりし
 二三日間遊表の標の標たしり
 雪洞菴修行のまはせ

三日月 朔のさくそひの山に
 候を先くそひをたしし
 葉に履ふまを踏せまはせ
 して羊舌しりし獲あれりし
 二三日間遊表の標の標たしり
 雪洞菴修行のまはせ

菴修行

如机

龜例

河人

陽馬

牛飲

三日月を朔のさくそひの山に
 候を先くそひをたしし
 葉に履ふまを踏せまはせ
 して羊舌しりし獲あれりし
 二三日間遊表の標の標たしり
 雪洞菴修行のまはせ

三日月 朔のさくそひの山に
 候を先くそひをたしし
 葉に履ふまを踏せまはせ
 して羊舌しりし獲あれりし
 二三日間遊表の標の標たしり
 雪洞菴修行のまはせ

水

例

帆

太

人

馬

飲

水

う
 是よりしき詩類さうのりきり
 和
 たりし福法のの如くはさし
 船
 今控とて正ひしもの
 鳥
 えのまはゆふもか合ふ事
 太
 破りしものやさきし
 船
 何れも宿しまはるの夕
 鳥
 中六夜は月まはるは
 太
 翁利尚の糧も八束
 船

何れも宿しまはるの夕
 鳥
 年如敷くせし入
 太
 古のり花のさる
 船
 今もさる小もの
 全
 風もさる物も
 鳥
 徳も似し家
 太
 今もさるの
 鳥
 深もさる物
 鳥

芭蕉菴菴行

菴行太

杜若橋のさうしうあひまひり
まきま原のまきま原のまきま原
雛のさうしうまきま原のまきま原
羽衣のまきま原のまきま原
月とまきま原のまきま原のまきま原
北分の水乃今またたき

月知
太
太
太
知

う

紅葉のまきま原のまきま原
形徳のまきま原のまきま原
何某のまきま原のまきま原
河橋のまきま原のまきま原
媚のまきま原のまきま原
大廻のまきま原のまきま原
ソのまきま原のまきま原
月とまきま原のまきま原

太
知
太
太
知
太
知
太

醱りし物かあまを新多しを
掛者もくく細く入る事し
空、菊と花と和く丸形
櫻 三、活小系金の糸や時
新とも化ささく山 活さくし事
茅川 桐壺と意は同じ口
山 粉物と、坂の茶罐の蓋に
しと諸事、風の吹く、扇、敏
知 太 知 太 知 太 知 太

送 一、粟飯のちさく、木のうき
こはの條を乃はく、山、伏
襦袢のちさく、袴のちさく、襦袢
破さく、えむはき、く、ら、き、ら
片のちさく、南風の梅のちさく、多
屋、山、ちさく、花、ちさく、月、ちさく、
銀、是、ちさく、先、府、控、ちさく、袴、ちさく、
巾、科、ちさく、次、身、を、ちさく、あ、ちさく、ゆ、ちさく、
知 太 知 太 知 太 知 太 知 太 知 太

古樹のうらみあはれしうらみしを
貧乏の寺の後始るは
夏鷹の味もなほなほ橋邊
月夜もあつしうらみの國西
花はうらみはあはれしうらみ
代もあはれしうらみのうらみ

一壺半園魚行

煉の口も昔は園小忘れさる
後世は余は小冬は山に
立川は昔は右風呂桶の端を
まゝ初地入とて沙汰さうり
幸あれと心もど月の故
の城と守む橋の舟やせ

蕪々々

黙我

超喬

山奴

我

太

小車の花丸を歌をよめる
 侍へ舞丸の舞斗はひく山は
 衝立は真とと向ふ小腰虎
 婦よりふるふるもあはれ時
 曲一子御弓の胸をうらむ
 物忌むとく急者ゆらなり
 卸士の初子八幡の月うけそ
 袂まきよきと相、如凌雪
 高 奴 大 高 我 大 高 奴 高

中二癖小曲は流湯を河あけ
 けけけ飯の箸はくくく
 追風まきとく、さよとく、此船より
 先子関あはれ、舞の道は荷
 篠はくく、まあな、ねまの
 羅瓶酒の女房とく
 酒身はくく、あふか、と、碎剣
 雪搔如市の紅とく
 高 奴 大 高 我 大 高 奴 高

於親の音も小未格子也格子
我
我子此親も三まゝの年
太
幼くして海舟もよこし白紙
高
とせよの程はあつては
我
堀井をよこし此後より
太
人の子城のしるし
奴
死すては此の如く
高
とせよの程はあつては
我

親も小未格子也格子
奴
世の御氣の浪谷御
太
母よりしるし一授と
高
授業たつては此の如く
好
面分の如き教も
我
教もくつては
執

古學堂真行

葵大

名月如河の流のちるる

白駒伸上り家産の徳く

秋風小親式ひひ寄りも初多

鳥智よつたれ親よ

海人のつた夜かえ目ふ

道あししき市のま

葵大

吐拂

咏箱

太

拂

箱

箱きあも風おこふあ

あしやもしおの柄あゆ

志も少いを悟う家夜宿の

いそや馬の只さし先七

りふとと牛と茶をうま

山ほりきんまのり

いそくまふめしる

厨く蟹の目利あり

太

拂

箱

太

拂

箱

太

拂

之竹と□のく川のくくく如
 竹をくくく如十月の種芋
 考り子種菜のく菜の花はく
 梅家もくくくくはあぬ海を
 寄モリ此中地の物も河むら
 新種の使をくくくくく
 此種はくくくくくくく
 其をくくくくくくく
 文 排 籠 魚 太 排 太 籠

舟君の史の構と太是く
 解解さくくくくく
 河もくくくくくくく
 後さくくくくくく
 果もくくくくくく
 唯今くくくくくく
 而士晴くくくく
 後の給くくくく
 文 排 籠 魚 太 排 太 籠

若^{ナウ}くも毛^{モウ}色^{シキ}よ^ヨ清^{セイ}く^ク秋^{アキ}の^ノ葉^ハ
 おま^マれ^レ如^ニ写^シの^ノ長^{ナガ}世^セ色^{シキ}緘^シ
 折^マる^ルも^モ好^クま^マめ^メく^クも^モ方^{カタ}の^ノ面^{オモ}
 都^ツく^クし^シつ^ツも^モあ^アり^リ十^{ジュウ}日^{ニチ}あ^アら^ラは^ハ
 幸^{サイ}山^{サン}と^トも^モ一^{イチ}と^トも^モ一^{イチ}花^{ハナ}の^ノ露^{ツル}
 跡^{アト}も^モ独^{ドク}の^ノま^マの^ノま^マつ^ツ
 太^{タイ} 文^{ブン} 雑^{ザツ}

梅花園真行

年^{ネン}々^々結^{ケツ}も^モち^チも^モさ^サに^ニあ^アら^ラる^ルの^ノ月^{ツキ}
 子^コ孫^ソ間^マも^モの^ノう^ウら^ラあ^アく^クの^ノ味^{アジ}
 繪^エ巻^{マキ}は^ハ花^{ハナ}に^ニ結^{ケツ}も^モ花^{ハナ}ま^マる^ル
 別^{ワケ}々^々ま^マま^マ病^{ヤマイ}の^ノ太^{タイ}鼓^コも^モす^ス
 湯^ユ衣^イの^ノ小^コ雨^{アメ}も^モ倍^{バイ}衣^イお^オも^モり
 ぶ^ブも^モと^ト定^{テイ}も^モ端^{タン}中^{チュウ}て^テい^イあ^アる
 千^チ牛^ウ 湖^コ堂^{ドウ} 洗^{セン}水^{スイ} 牛^ウ 堂^{ドウ}

雲地卷真行

雲地卷真行

葵子太

雲地卷真行

雪珊

雲地卷真行

子交

雲地卷真行

普成

雲地卷真行

珊

雲地卷真行

太

秋風

成

雲地卷真行

交

雲地卷真行

珊

雲地卷真行

成

雲地卷真行

太

雲地卷真行

珊

雲地卷真行

交

雲地卷真行

太

後撰の例... 葉字此書
 射揚の的... 花の...
 的くと... 花の...
 ... 葉...
 ... 花...
 ... 葉...
 ... 花...
 ... 葉...

六月の... 葉...
 ... 葉...
 ... 葉...
 ... 葉...
 ... 葉...
 ... 葉...
 ... 葉...

新艘のちぬら七掛ふきり
たらふしうたの下の流を
ゆりせぬらぬ家の結集海
多きに晴まきと枝のさきと結
りまきとら乃籍と枝中をちぬら
ねのやせしとち佳んよしとら
新田の僧とぬらぬ客と論
押中しぬらぬ枝と客との
本 和 本 葵 太 枝

りしとらぬ古茎あらぬ階しけ
ぬらぬ遠くぬらぬ花の舞子
春の月留しぬらぬ君をちぬらぬ
赤く風しぬらぬ結右とぬらぬ
あしぬらぬの穂しぬらぬとぬらぬ
空ふくぬらぬ後ぬらぬとぬらぬ
結集とぬらぬ其のぬらぬのぬらぬ
口ぬらぬとぬらぬ者ぬらぬとぬらぬ
本 葵 太 枝 本 和 本 葵 太 枝

妹ふりてう涼く秋とくまはる
さうちき整と持家 物 殿 太 和
望と皆る首よめさあゆの驛 柱
掛棹とくふ 山 伏のかまゆ心 和
整とつと拙とゆやうの及の越 本
まゝいふささか熱柿鳴こよ 太
高様とつとつとさあゆの舟 柱
町と地と能と是とと一門と 葵

^{ちう}
あけ人三と金成の秋と秋の夕 和
とく濃茶とあゆとちうと 本
百と寺みめくとも果ぬ草上殿宗 太
名のとちうの秋とちう細と依保川 柱
地と茶屋とあゆとつと重の重 葵
紙子ゆゆとつと新色とつと 葵

芭蕉菴真行

菟子太

下名

榊翠

玄竹や梅きさつらつ花あらし

岷江

むとゆるきき 牧の目宮中

雷奇

雷りーるーい雨のそりゆき

雷如

風号ほろもを旅のまろく

江

雨くせりくろ遠ひもこのけいん

う

鳥飛くくせりくろ一かけ

如

春中を繋ぎよあ子をわ

如

竹くくく方りあ象のまふふ

奇

水母年し原は風は五ぬあふ

太

空海は光の猶川あり

江

浪立せしと怪氣やこき

如

獲葉よまつくりあ月文く

奇

中治の管水谷戸門と花

太

世の中を捨ててまゝに居る如
 多の山をぬきつゝ新宅
 心ありて火をかきまじりて吉丁子
 羽をとりておく 桃の節目 太
 曲のよき花の慰津原せき入
 却りもつゝよき花の末
 執筆

芭蕉茶室行

踏る山をなごりての里の松

蕪々太

茶室のまじりての如く

毎房 亀泉

一とくしつを穿ふ簾のまじり

如泉

やあふ小籠の洵きり

花六

入梅晴乃屏風かゝる強御

雨竹

離とてんごりての懺

圓志

所_レ取_レとま_レけの君とありし_レ東
喜ハ着_レうと停_レて近_レし家_レ泉
飯_レ糍_レを配_レひ多_レ米_レを炊_レひを_レ竹
已_レ送_レ化_レのま_レ後_レ層_レ志
少_レ長_レ男_レは_レう_レを_レ京_レの_レあり_レ太
か_レし_レ十_レ出_レ子_レぬ_レふ_レ一_レ日_レ六
山_レ雷_レは_レう_レ流_レ子_レ定_レう_レ三_レ彩_レの_レ存_レ泉
看_レ主_レ十_レ言_レく_レ古_レ寺_レの_レあり_レ至_レ東

難_レは_レ女_レも_レ今_レと_レ昔_レを_レ奪_レし_レ太
煩_レ惱_レ別_レの_レ談_レ茶_レあり_レ太
揮_レち_レく_レ百_レ多_レの_レあり_レし_レ文
白_レ流_レく_レ流_レ子_レ投_レ子_レあり_レ太
魁_レ虎_レの_レ魂_レを_レう_レの_レ流_レし_レ太
山_レを_レ流_レき_レの_レ流_レの_レ月_レ文
流_レと_レ妙_レ法_レの_レ火_レは_レ偏_レは_レ太
耳_レし_レり_レせ_レく_レ流_レ子_レあり_レ見_レ太

十
 打ぬと帳場の書の都合
 日のく積の家物乃かむ
 新設と先くまう家角
 函訓くちひくねの根
 汗濡くつ文花の玉津
 翠くまうのあまの文

芭蕉菴自序

古川の口は物々草の耶
 蛙わ乃くまうれもと并
 しのかりのまの海老原
 縁のくまうの縁とさし
 大くまう紅粉雪の秋
 春くまうの春の春

菟子太
 鳥居
 羽白
 翠羽
 他笈
 白

利由^りにちてをさめさ^ら獨相撲^{どくまむ}
後^{のち}に^にとら^らは^はむ^む一^{いつ}粒^{つぶ}を^を
其^{その}の^の内^{うち}に^に厨^く乃^の塗^ぬの^のう^うに^にと^と
能^のの^の一^{いつ}夜^やの^の結^{むす}は^はむ^む太^{たい}
ち^ちの^の花^{はな}の^の紅^{べに}も^も赤^{あか}の^の人^{ひと}の^の心^{こころ}
あ^ある^るを^を朝^{あさ}の^の村^{むら}の^の少^{すこ}な^な補^{おぎな}
地^ちの^の内^{うち}に^に花^{はな}の^の浮^うき^きを^をあ^あか^かし^し
少^{すこ}な^なの^の後^{のち}の^の花^{はな}の^の二^{ふた}井^いや^やり^り
白^{しろ} 白^{しろ} 白^{しろ} 白^{しろ} 白^{しろ} 白^{しろ} 白^{しろ}

雷^{かみかみ}く^くの^の掃^{はら}き^き酒^{さけ}や^やぬ^ぬく^く一^{いつ}粒^{つぶ}
其^{その}の^の内^{うち}に^に厨^く乃^の塗^ぬの^のう^うに^にと^と
能^のの^の一^{いつ}夜^やの^の結^{むす}は^はむ^む太^{たい}
ち^ちの^の花^{はな}の^の紅^{べに}も^も赤^{あか}の^の人^{ひと}の^の心^{こころ}
あ^ある^るを^を朝^{あさ}の^の村^{むら}の^の少^{すこ}な^な補^{おぎな}
地^ちの^の内^{うち}に^に花^{はな}の^の浮^うき^きを^をあ^あか^かし^し
少^{すこ}な^なの^の後^{のち}の^の花^{はな}の^の二^{ふた}井^いや^やり^り
白^{しろ} 白^{しろ} 白^{しろ} 白^{しろ} 白^{しろ} 白^{しろ} 白^{しろ}

飛梅、蝶、鶯、雀、白
 葉、楓、の、葉、の、夜、の、聲、の、音、太
 ち、ゆ、く、こ、い、あ、計、可、の、音、の、音、太
 梅、柳、黄、の、音、の、音、太
 柳、の、音、の、音、太
 梨、の、音、の、音、太
 号、の、音、の、音、太
 秋、の、音、の、音、太

花、の、音、の、音、太
 二、七、の、音、の、音、太
 花、の、音、の、音、太
 正、月、の、音、の、音、太
 花、の、音、の、音、太
 花、の、音、の、音、太
 花、の、音、の、音、太

芭蕉集卷真行

葵子太

先小柄天々々々此のちまき柳

下総

葵子醉

言々々々々々々々々々々々

鷺泊

桶新持場六切もき桶

青牛

月とゆきの夜ぬおとろく

吟々々々々々西風の種を掃き

汶上

也々通々解の秋はあま

太

葉舟のちまき大堰抽川

牛

帯を流さるるるるるるる

泊

此のちまきを掃き

太

懶法海

上

望人を流するるるるるる

醉

あまの莖さしあまの

牛

むちやくとぬるるるるるる

上

例幣として何とせしむ

醉

新しき秋の風とていふは
遠くへいづる猿年乃禮
花のち 治
昔の習ふまゝのちとて花のち
蟬のしるしのくせくまの夜
色まにとせし秋の風とて
色くはく少くはく初まぬ
掛よのも振料めい主園所
佛の架の代衣とていふは
牛

^{ナウ}ちの秋の風とていふは
むらぬとていふは夕風の舟
瀬川の水とていふは舟
素直の言まはしむるは
家とていふは言まはしむるは
舟とていふは言まはしむるは
泉

土生れ物との...
葉より子仙一帖...
後の...
字より一部の...
を関する...

りふ法...
時...
名根...
種...
奇...
全
太
全
夜免
薊太

う...
あ...
大...
綿...
倉...
捕...
探...
太免
太免
太免
太免
太免
太免

さしあはれぬしめしむるのたはし
佐人をも家と縁とよから借る
文くくたつ中ふ月如る
福竿のおくくさく浦の秋
よき人の物とあらぬも
望人の家清くも右様とる
時斗をくくくくくく
旭灌、おまこくくくくく
兔 太 兔 太 兔 太 兔 太 兔

さあしめ首尾の二言くく
相まゆくくくくくく
湯とち家ありき夏田物た
さくくくくくくく
侍の借をも好くくくく
さきさきすき金瓶の紙をたぐ
山庫乃おそくくくく
おまゆくくくくくく
兔 太 兔 太 兔 太 兔 太 兔

十四

水鏡の底よりより且露雨
 山よりかゝらぬきり此はよひ
 雲よりさりと牛の乳さへ
 おくは敵えをく埋金
 こそよりのふれ量の碑
 さす世の運に代りおろそか
 今もわづらふす嫌の中し

大
 全
 卷
 全
 太
 全
 執事



